

# 第一回 福岡モーターショー 出展報告

ITS 統括研究部調査役 吉澤 生雄

REPORT ③

## 1 はじめに

福岡県を中心とした北部九州には、トヨタ自動車（福岡県宮若市）、日産自動車（福岡県荻田町）、ダイハツ工業（大分県中津市）の生産工場が稼動しています。2006年には年間生産台数は100万台を突破し、2009年度には年間生産台数150万台が予測され、自動車の一大生産拠点に成長しています。並行して、自動車部品の製造会社など自動車関連産業の進出が相次ぎ、自動車産業が地元北部九州の経済や地域の活性化のけん引役を果たしています。このような「カーアイランド九州」と

しての自動車生産事情が背景となって「九州からアジアへクルマの未来と文化を発信」することを意図したモーターショーが2007年12月に福岡市で開催されました。当機構では、国土交通省のブース設置・展示に協力し、2007年5月から首都高速道路で実証実験を行った映像や音声により安全運転を支援する新しい情報提供サービスの紹介やITSに対するこれまでの取り組みを広く周知しました。

## 2 福岡モーターショーの概要

福岡市博多区博多港に隣接する南

側の地域には、マリンメッセ福岡・福岡国際センター・福岡国際会議場・福岡サンパレスがあり、一大コンベンションセンターエリアとして整備されています。この4会場で、福岡モーターショー2007（正式名称＝福岡自動車博覧会、西日本新聞社など産学官でつくる実行委員会主催）が、2007年12月7日から10日までの4日間にわたり開催されました。昨年、国内で開かれたモーターショーとしては、東京、名古屋、大阪に次いで4番目となります。

55団体が出展し、自動車、二輪車メーカーとしては17社が参加し、160台が展示されました。週末の日曜日には、会場の入り口には朝から多くの来場者で長い行列ができ、閉館時間を繰り延べするほどにぎわいました。期間



図1 福岡モーターショー会場マップ



写真1 会場入り口は長蛇の列



写真2 4輪車の展示（マリンメッセ福岡）



写真5 イタリア車は展示の目玉（左端の車は1台3500万円）



写真3 混雑する会場（マリンメッセ福岡）



写真6 2輪車展示風景（福岡国際センター）



写真4 福岡国際センター（大相撲九州場所の会場）

中の人出は11万6600人にのぼり、主催者が見込んでいた10万人の目標を大きく上回りました。

福岡モーターショーの最大の特徴は、「自動車は文化」という視点から、自動車だけの展示に限らず、自動車産業の将来、未来の自動車とは何かを追求していることでした。このため、最新車を展示する「モーターショーパビリオン」に加えて「フォー

ラムパビリオン」と「カーライフパビリオン」が設置され、自動車の魅力と未来が展望されました。

モーターショーパビリオンとしてメイン会場となったマリンメッセ福岡には、国内の自動車メーカー8社を含む22のブースが設けられました。1階では、国内の自動車メーカーが独自のコンセプトカーや最新車を展示し、2階には九州風景街道・自動車観光ゾーンが設置され、九州の美しい街道の風景がパネルで展示されていました。入り口横の特設ブースでは、有害な排ガスを出さない燃料電池や電気、水素などで会場付近1.5キロを走行する次世代燃料車の試乗会も行われました。

カーライフパビリオンの会場である福岡国際センターでは、本田技研工業

（ホンダ）、ヤマハ発動機（ヤマハ）、川崎重工業（カワサキ）、スズキの国内二輪車メーカー4社による、最新型2輪車60台などのモーターサイクルの展示と個性豊かなイタリア製乗用車11台の展示、そして、国土交通省や大学、企業など11の団体がそれぞれに研究開発したシステムや製品をパネルや映像などで紹介するITS（高度道路交通システム）ゾーンが設けられました。

フォーラムパビリオンとなった福岡国際会議場では、8日の午前中に最先端のITSや九州での取り組みなどを紹介する「ITSシンポジウム in 福岡—アジアを視野に入れたITSの新展開」が開催されました。

このシンポジウムには国総研の平井室長もパネリストとして参加し、参加者約100人が、先進地や九州の現状と課題に耳を傾けました。また、9日に開催された「日本風景街道シンポジウム in 九州」では国交省の谷口技監が基調講演を行い、日本風景街道の理念や各ルートでの取り組みを紹介しました。約370人以上の道守や風景街道の関係者が熱心に聞き入り大盛況となりました。この他、期間中には「自動車産業フォーラム」、パネルディスカッション「北部九州の次世代自動車開発拠点化に向けて」、「みちづくし in ふくおか—道守九州会議交流会 2007」など、自動車と九州の未来を語り合う7つのフォーラムとシンポジウムが開催されました。

### 3 出展の概要

福岡国際センターの一角には、ITSゾーンが設けられ、国土交通省、国土交通省九州地方整備局、福岡北九州高速道路公社の3団体で写真のように統一したブース展示を行いました。

国土交通省本省ブースでは、① Smartway2007の公道実験をテーマとし、北京のITS世界会議の際にも大勢の来場者から注目を集めた映像とジオラマをセットにして公道実験に供されたサービスを紹介し、② Smartwayの推進体制、普及するITSサービス、主な次世代道路サービスを、解説するパネルを展示し、また、③ ドライビングシュミレーターも設置して、Smartwayのサービスを仮想体験して

いただきました。ドライビングシュミレーターは、家族連れの方に人気となり4日間で延べ1,146名の方が体験乗車するなど、ITSブースコーナーは前回2005年の東京モーターショーでの展示ブースの時を上回る来場者で大賑わいでした。

### 4 おわりに

モーターショーは、昨年は10月下旬に東京で開催されたのを皮切りに、その後、名古屋、大阪、福岡が続き、12月中旬開催の仙台で幕を閉じました。東京会場の展示内容が縮小された形で国内各地で展示されるのが通常ですが、近年東京会場での来場者数が減少しているのとは対照的に、名古屋と大

阪では昨年来場者が過去最高を記録しました。今年、初めて開催された福岡でも、当初の目標を上回る来場者があり、地方でのモーターショーの根強い人気うかがえます。

福岡では、初めての試みとして国土交通省本省と九州地方整備局、福岡北九州公社とが連携して一体化感をもし出したブースにしました。来場者の皆様には、ITSサービスに対する全般的な展開とご当地における取り組み状況を、シームレスに見聞きできたので、ITSサービスに対する理解もこれまで以上に深めていただけたようでした。



写真7 ITS関連統合ブース（福岡国際センター）



写真8 映像とジオラマ



写真9 ドライビングシュミレーター



写真10 ITSパネル展示